



評価法部会

ルーブリック

アムステルダム日本語補習授業校 岡部彩

ご紹介

ループブック
を活用して
子どもたちも
自分も伸ばす



はじめに

ルーブリックとは

パフォーマンスを評価する方法の一つ

- ・ペーパーテストで測れない力を測る
(発表、プレゼン、書く力、音読、グループワーク等)
- ・大きく分けると三種類 $T \rightarrow S$ 、 $S \rightarrow S$ 、 $T \rightarrow T$
- ・「なにを達成させたいか」と「どれくらい達成させたいか」

	知識・ 技能	思考・判 断・表現	主体的に 学習に取り 組む態 度
A	よくできる		
B	できる		
C	頑張ろう		

メリット



指導力が上がる

1 授業の精度が上がる

単元終了後に「なにを」「どの程度」できるようになってほしいかを言語化
→授業準備の迷いが減る、方向を見失わない

2 授業の改善点がわかる

想定していた評価と実態が合わなかった場合は
学習活動の選び方や指導の仕方を振り返ること
で、改善につなげることができる

3 評価の取り漏れを防ぐ

見るべきポイントを決めておくことで、見落としを減らし、評価の公平性も確保する。

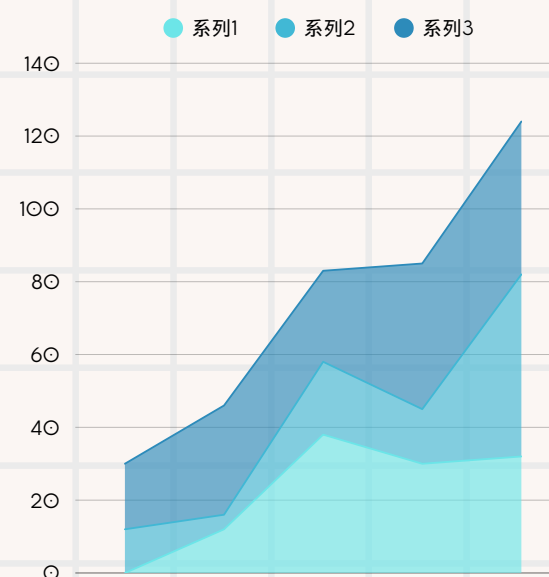
手順

ルーズブリックの作り方



目標を選定する

指導要領を読み込み、その単元でできるようにしてほしいことを絞り込む。



達成度合を決める

絞り込んだ達成したいことを、どのくらいできるようになってほしいか、達成度合をグラデーションにする。

	知	思	態
A			
B			

縦軸と横軸に落とし込む

表にする。

読む力

音読・暗唱チェック表

年 組 番 名前

チェック日		読んだ作品		
		A	B	C
知識・技能	正確さ	漢字やカタカナの読み間違いは一つもなく、かんぺきである。	何回か読み間違いはあったものの、おおかた正しく読むことができる。	正確に読むために練習の工夫（指でなぞりながら／少しゆっくり読む、等）をしましょう。
	高低アクセント	正しい高低アクセントで読むことができる。	何回か誤りはあったものの、おおかた正しく読むことができる。	むずかしい言葉の発音の仕方を一つひとつ確認しましょう。
	言葉の区切り	言葉の区切りが適切である。	言葉の区切りはおおかた適切である。	言葉の区切りを見直しましょう。
	※暗唱の場合	全文を覚えて何も見ずに暗唱することができる。	おおかた何も見ずに暗唱することができる。	練習を続けて全文を暗唱できるようがんばりましょう。
思考・判断・表現	音声表現の工夫	文章の内容に合わせて声の強弱やスピード、間などを工夫することができる。		
講評				

AG+ 評価法部会

(例) 説明文 3 年 2 学期 リテリング タイトル: すがたをかえる大豆

20XX 年 12 月 〇 日 氏名: 〇〇 〇〇

	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	語彙・文法	流暢さ	主題・要点・まとまり	詳細情報	話す態度
A	適切な語彙・文法が効果的に使われている。	詰まることなく話す。	概要をまとめて話すことができ、一貫性がある。	概要を補完する詳細情報が適切に含まれている。	自分から進んで発言して伝達を自らリードしている。
	・説明する、理由を言う、例を挙げる際に使われる文法が正確に使われている。 ・説明するために必要な語彙が必要に応じて適切に使われている。 - 大豆の加工食品名とその加工方法 - 「次に」「さらに」「このように」などの接続詞		各場面の登場人物や物が説明できている。 (1) 毎日の食材と大豆の特徴 (2) 調理方法と加工方法 (3) 食べ方が工夫されている理由。栄養、育てやすさ		
B	語彙・文法がある程度適切に使われている。	ときどき詰まることがある。	いくつかの要点を関連付けている。	概要を補完する詳細情報が時に含まれる。	尋ねられた質問に答える。
	・説明する、理由を言う、例を挙げる際に使われる文法の誤りが伝達を妨げない。 ・説明するために必要な語は十分ではないが、伝達を妨げない。 ・尋ねられれば適切に答える。		・詳細情報は十分ではないが、尋ねられれば適切に答える。		
C	話を正確に伝えるために語彙・文法を適切に使う必要がある。	話を終えられるようになる必要がある。	一貫性を持たせる必要がある。	詳細情報が必要である。	ジェスチャーや表情でコミュニケーションを取ろうとしている。

◆ ルブリック作成・使用時の注意

・授業で扱わなかった内容は含めない。

・評価前に十分に練習の機会を与える。

・評価課題を示す際に（評価前に）必ずルブリックを学習者（児童・生徒）および保護者に示す。

『書く』こと評価 ルーブリック 小学1・2年(作文 さくぶん)

評価	観点	さくぶんの かきかた				げんこうようしの つかいかた	
3	よくできる	かくこと みつけ	ぶんのいみ	「・・は」「・・へ」	ちいさい ひらが	ぶんの はじめと お	さくぶんの だい
		じぶんが おもったことや かんじたことを たくさん 書いて、ともだちが しっかりわかる	「なにがどんなだ」、「だれがどうした」とわかるようにかける	「・・は・・・した」、「・・へ・・・いった」、「・・を・・・した」と たくさんかける	ちいさい「つ」、「や」、「ゆ」、「よ」を たくさんかける (ちよっと・びょうき など)	ぶんのはじめは、ひと ます あけて かける ぶんのおわりには、「。」をつける	だいをかくときは、3 マスあけて かける
2	ふつう	じぶんが おもった ことが すこしは かける ともだちに つたわ	「なにがどんなだ」、「だれがどうした」と いくつかはかける	「・・は」「・・へ」「・・を」をいくつかは たくさんかける まちがいがいくつか ある	ちいさい「つ」、「や」、「ゆ」、「よ」を いくつかは、 たくさん かける	ぶんのはじめは、ひと ますあけて かける ぶんのおわりに、「。」をつけない	だいをかくとき、1 マスだけあけてかける
		ともだちに じぶん が かいいたことが つた げんばろ う	「なにがどんなだ」、「だれがどうした」と いうぶんがかけない	「・・は」「・・へ」「・・を」ということを つ げえない	ちいさい「つ」、「や」、「ゆ」、「よ」を たくさん かけない	ぶんのはじめは、ひと ますあけて かけない おわりに「。」を かけない	だいを かけない だいを マスをあけ ずに かく
備 考		〈指導の単元〉					
		1年上「かくこと たのしいな」「どうぞよろしく」 1年下「すきなこと なあに」					
		2年上「にっきを書こう」「かんざつ名人になろう」 2年下「おもちゃのつくり方をせつめいしよう」					

ループリック

評価＜自己評価＞		3	2	1
活動に主体的に取り組んでいる。 (クイズの点数に現れない評価) 読み聞かせ中の会話に参加している。 お話を理解している。	低学年	どんなおはなしか、わかった。	どんなおはなしか、わかった。	どんなおはなしか、よくわからなかった。
	中学年	どんなお話か、わかっただけでなく、読み聞かせ中に自分の考えを持ったり、「もし自分だったら」と考えたりできた。	どんなお話か、わかった。	どんなお話か、よく分らなかった。
	高学年	お話のテーマが分かり、それについて、自分の意見を持つことができた。	お話のテーマがわかった。	お話のテーマが分からなかった。
	中・高	聞いた話から、新しい視点を見つけることができ、さらにそれに対する自分の意見を持つことができた。	聞いた話から、いくつかの視点を見つけることができた。	お話のテーマが分からなかった。

AG+ 評価法部会

(例) 案内文・説明文 タイトル: 家族旅行におすすめの場所を提案しよう

		4	3	2	1	読んだ人からのコメント
思考力・判断力・表現力	A 魅力	記事に魅力を表す表現が多く入っていて、どんな魅力があるか、想像できる。	記事に魅力を表す表現がいくつか入っていて、どんな魅力があるか、だいたいわかる。	魅力を表す表現が1～2つ以上入っている。	どんなものがある/食べられる/見られるかわかる。魅力を表す表現を入れたとをもってよくなる。	
	B 長さ	記事が100～300字で書かれていて、おすすめの場所の様子と魅力がわかる。		おすすめの場所の様子と魅力が伝わるが、字数が多く、リーフレットには長過ぎる。	字数が少なく、おすすめの場所の様子と魅力が伝わりにくい。	
	D 絵や写真	全ての写真や絵が内容に合わせて使われていて、文章と見しよに見るとわかりやすい。	だいたいの写真や絵が内容に合わせて使われている。文章と見しよに見るとわかりやすい。	写真や絵が使われている。文章の内容と合わせると、もっとわかりやすくなる。	絵や写真が1枚はある。	
知識及び技能	C 文末	どの記事の中でも同じ文末表現にそろっている。	どの記事の中でもだいたい同じ文末表現にそろっている。		ですます体(丁寧体)とだである体(普通体)がまざっている。	
態度	D					

◆ ルブリック作成・使用時の注意

・文章の種類・書く目的・想定とした読み手によって、評価項目を変更する。

・下書きの段階で一度評価し、それをもとに推敲することでより目標に近い文章に改善する機会を設ける。

・評価課題を示す際に（評価前に）必ずルブリックを学習者（児童・生徒）および保護者に示す。

まとめ

ルーブリックのいいところ

授業の精度が上がる

自他共に目指すところをはっきりさせる

授業の改善点が見つかる

もっといい授業にするためのヒントを収集する

評価の取り漏れ・見逃しを減らす

頑張りを掬い上げてフィードバックし、次につなげる



実際 . . .

作ってみたいのはやまやま
だが、**時間がない。**

自分で作ってみる前に、
既存のものをためしに使っ
てみたい。



叩き台あります

音読・暗唱チェック表		年 組 番 名前		
チェック日		読んだ作品		
		A	B	C
知識・技能	正確さ	漢字やカタカナの読み間違いは一つもなく、かんべきである。	何回か読み間違いはあったものの、おおかた正しく読むことができる。	正確に読むために練習の工夫（指でなぞりながら／少しゆっくり読む、等）をしましょう。
	高低アクセント	正しい高低アクセントで読むことができる。	何回か誤りはあったものの、おおかた正しく読むことができる。	むずかしい言葉の発音の仕方を一つひとつ確認しましょう。
	言葉の区切り	言葉の区切りが適切である。	言葉の区切りはおおかた適切である。	言葉の区切りを見直しましょう。
	※暗唱の場合	全文を覚えて何も見ずに暗唱することができる。	おおかた何も見ずに暗唱することができる。	練習を続けて全文を暗唱できるようがんばりましょう。
思考・判断・表現	音声表現の工夫	文章の内容に合わせて声の強弱やスピード、間などを工夫することができる。		
講評				

課題 報告文（小学五年）

年 組 番 名前

		A 3点	B 2点	C 1点
知識・技能	表記	習った漢字やカタカナを適切に使うことができる。	既習漢字やカタカナを使うことができる。見直しをすればなおよい。	習った漢字やカタカナで書くべき言葉を復習しましょう。
	引用	引用する場合、他と区別して書くことができる。	引用する場合に、他と区別しようとしていることは読み取れるが、はっきり区別して表記できるとなおよい。	引用する場合に、他と区別せずに書いているので、引用の仕方を復習しましょう。
思考・判断・表現	文章構成	まとまりが分かるように書くことができる。		まとまりが分かるように書くことについて、もう一度復習しましょう。
	文章構成	まとめの内容は、それまでに述べてきたことをうけて書くことができる。		それまでに述べてきたことがまとめの内容とつながっていないので、教科書の例を参考にもう一度復習しましょう。
	表現の工夫	写真や図表、グラフなどを用いて自分の考えが伝わるよう工夫することができる。	写真や図表、グラフなどを用いている。自分の考えが最もよく伝わるものを選ぶようにするとなおよい。	自分の考えがより伝わるように写真や図表、グラフなどを用いるようにしましょう。
講評				得点 点

評価法部会

ルーズブリックを作成しています

先生方にご活用いただけるよう、評価法部会で作成したルーズブリックを入れてあります。

グーグルドライブ「評価法部会報告24」
<https://drive.google.com/drive/folders/1Sl-IGPxRRna74Mp7yx7ayj5YYWa4yKEM>

取扱説明書・説明動画もあります

どのように使えばよいかを記した取扱説明書、そして過去に作成した説明動画も収納してあります。よろしければぜひご覧ください。



評価法部会からの お願い

お手元のルーブリックを
ぜひシェアしていただけ
れば嬉しいです。

グーグルドライブ「ルブリック提出用」
<https://drive.google.com/drive/folders/11uVFb5xsUUrhl6RmLBNrRVBq4sJm6KqJ>